スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

長野県 佐久穂町

自 治 体 名 ： 長野県佐久穂町
担 当 課 名 ： こども課
電 話 番 号 ： ０２６７－８６－４９４０

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	767.42 ㎢
人口	21,625 人
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	507 人
部活動数	23 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	令和5年4月に「南佐久郡中学校部活動運営委員会」を設立済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	作成中

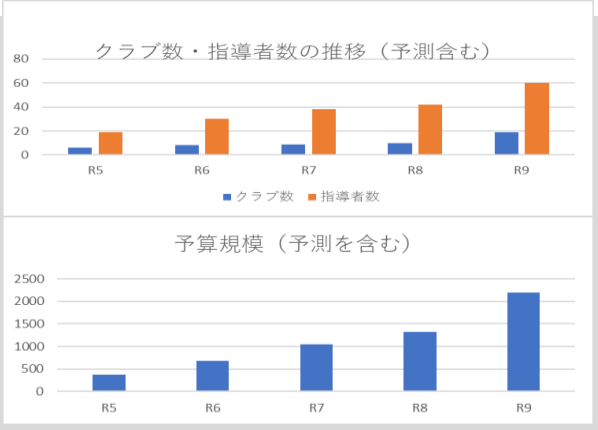
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

南佐久郡（佐久穂町、小海町、北相木村、南相木村、南牧村、川上村）は、中山間地にあり、標高の高さを生かした高原野菜などの産地となっている。6町村は以前から様々なことを連携して行ってきた実績を持つ。

部活動の地域連携においては、令和2年の教育委員と学校長の研修会で中学校の現状が発表されたことをきっかけに、教育委員会・学校・部活動の保護者会で存続の検討が始められた。その結果、令和5年4月に運営委員会が立ち上がった。ここが中心となり、単独では大会に参加できないチームスポーツを中心に、拠点校方式による合同部活動が開始された。保護者に負担を求めないことを目標として2年間活動をしてきた。

今後、令和9年度を目標に、休日における部活動の地域移行を完全実施する計画を立てている。ここで、課題となるのが予算規模の大幅拡大である。試算では、本年度の4倍のお金が必要となる。歳入面では、6町村の負担金に頼っているが、現在の4倍のお金を負担していただける見通しは持てていない。そこで、保護者負担を求める方向で、説明会などを開催している。アンケートの結果から、保護者負担に対する理解が進んできていると思われる。



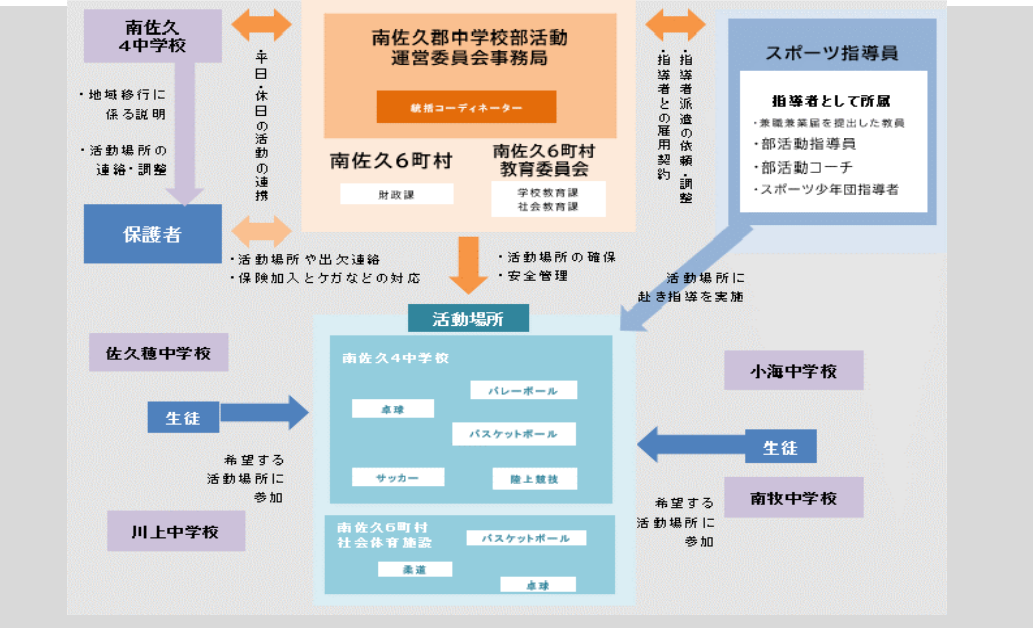


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・統括コーディネーターと協力し、地域移行に関する事務手続きを分担する。

◉首長部局

・予算の確保（安定的に継続して事業運営をするための町村負担金の確保）
・地域住民の意思の反映（町村負担金の必要性について地域住民との合意形成）
・学校施設や町村所有バスの利用についての合理的配慮

年間の事業スケジュール

令和６年４月	第１回指導者打合会の開催
令和６年５月	地域クラブ活動の開始
令和６年５月	第１回南佐久部中学校部活動運営委員会の総会開催
令和６年10月	小学生へのニーズ調査
令和６年11月	生徒保護者指導者へのアンケート調査
令和７年１月	第２回南佐久部中学校部活動運営委員会の総会開催
令和７年２月	第２回指導者打合会及び研修会の開催
令和７年２月末	地域クラブ活動の終了
令和６年４月～令和７年３月	４校校長会を月に１回のペースで開催
令和６年５月 令和７年２月	各校部活動運営委員会で現状及び今後の展開の説明

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	４校	実施した地域クラブ総数	９クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		９クラブ（８部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		０クラブ
全体の指導者数	３８人	全体の運営スタッフ数	１人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
サッカークラブ	南佐久郡中学校部活動運営委員会	サッカー	月２回	午前中３時間	1年：11人 2年：17人 3年：7人	５月から翌年２月	中学校グラウンド	７人	1人（内、兼務1人）	年会費０円	その他：地域クラブ
女子バレーボールクラブ	南佐久郡中学校部活動運営委員会	バレーボール	月２回	午前中３時間	1年：5人 2年：5人 3年：10人	５月から翌年２月	中学校体育館	４人	1人（内、兼務1人）	年会費０円	その他：地域クラブ
男子バスケットボールクラブ	南佐久郡中学校部活動運営委員会	バスケットボール	月２回	午前中３時間	1年：8人 2年：10人 3年：8人	５月から翌年２月	中学校体育館	５人	1人（内、兼務1人）	年会費0円	その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●開催実績はない

2.実証内容と成果

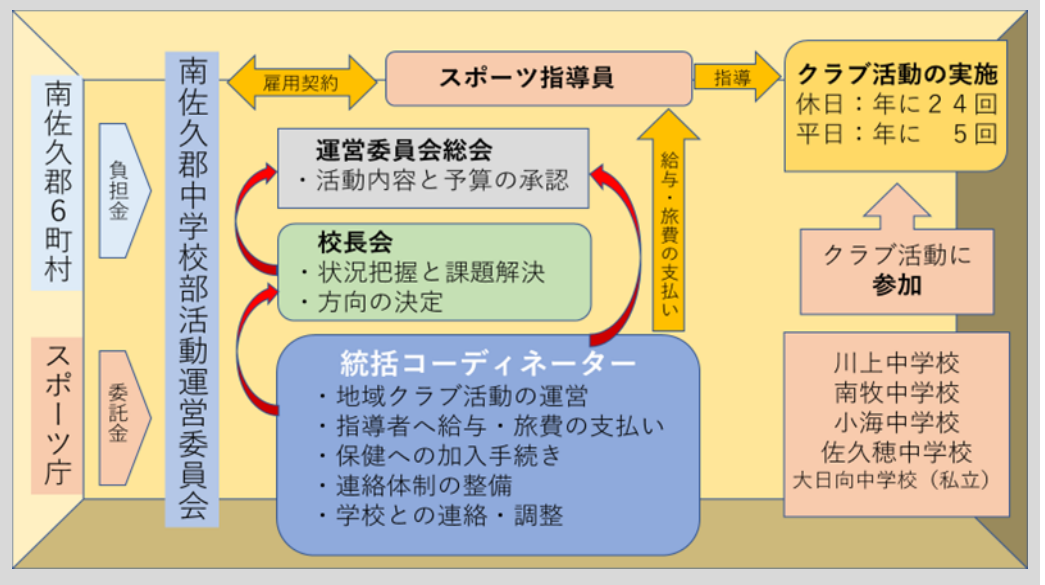
スポーツ庁

主な取組例

●南佐久郡クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、男子バスケット、女子バスケットA、女子バスケットB,男子バレー、女子バレー、卓球、陸上、柔道
運営団体名	南佐久郡中学校部活動運営委員会
期間と日数	全ての種目が同じように実施 ５月１日～２月２８日 月に２回程度、年に２４回をめどに
指導者の主な属性	教員（兼職兼業）、部活動指導員、地域の指導者
活動場所	学校施設、公民館、公共の施設
主な移動手段	保護者による車での送迎、JR小海線
１人あたりの参加会費等（年額）	無料
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括コーディネーター

役割　・会議の開催及び運営　　・お金の管理（指導者への給与・旅費の支払い、消耗品の購入・管理、スポーツ安全保険への加入手続き、保護者への補助金支給、国税の納入）　　・書類作成及び管理（指導者から提出された書類の確認・報告書などの作成）　　・視察や講演依頼への対応　　・保険金支払いへの対応　など　・源泉徴収票等の作成

●指導者　　役割　・生徒への指導　　・活動実績の提出

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

南佐久郡中学校部活動運営委員会総会及び郡教育長会において報告。６町村の教育長に現状や課題を理解してもらい、各町村の関係者に運営委員会への協力を呼び掛けていただいた。

各校で実施される部活動運営委員会に出席し、保護者に対し地域移行についての理解と協力を求めた。

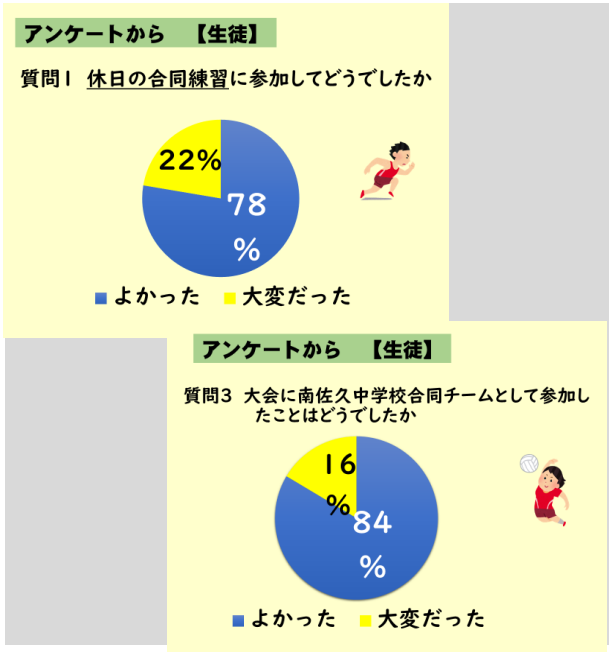
指導者打ち合わせ会において、子どもたちが主役となる指導の徹底について共通理解を図った。

取組の成果

各町村の教育長との連携を密にすることで、それぞれの首長の理解を得て、令和７年度における負担金の増額を認めていただくことができた。

各校での部活動運営員会に参加し、保護者からの生の声を聴くことができ、それを運営に生かすことができた。例えば、拠点校に固定していた練習場所を変更し、時には他校を練習場所にすることで、送迎の負担に偏りがないようにした。

指導者打ち合わせ会において、「指導の心得」の徹底を呼び掛け、生徒にとって楽しく有意義な活動ができるようにした。生徒へのアンケートから、休日・平日の練習に満足しているという回答が約８割寄せられた。また、合同チームで大会に参加したことについても８割以上が満足であると回答した。



コーディネーターの具体的な動きの実績

○会議、研修会の開催：南佐久郡中学校部活動運営委員会総会２回、校長会11回、指導者研修会及び打ち合わせ会２回　○会計事務：保険加入手続き、消耗品等の支払い、指導者への給与及び旅費の支払い　○視察・講演への対応：視察対応14回、講演７回　○部活動運営委員会での説明８回、教育長会での説明１回

今後の課題と対応方針

令和９年度の休日における地域移行の完全実施に向け、そのプロセスを関係者全員に周知できるような取り組みをしていく。指導者・保護者と直接話をする機会をとり、分かりやすく伝えることと同時に不安に思うことを出してもらい、解決策を共に考えていくことが大切である。そのためにも、全員にすぐ伝わる連絡網などの整備をしていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

○各中学校において、専門的な知識や技能、やる気のある職員への声がけ。部活動指導員への声がけ。コーチ経験者、スポ少の指導者への声がけを行い、人材を確保した。

○運営委員会による研修会を開催し、県指導主事からコンプライアンスを含む指導全般についての講義を受けた。

人材バンクの人数

本委員会では人材バンクを作成していない。

人材バンクの年齢構成

長野県作成の人材バンクでは、南佐久で指導できる人材は２名で、20代と40代の方である。

登録者属性

長野県から情報をいただき、人材バンクの登録者を確認した。

県人材バンクには200名を超す方が登録している。その中で、南佐久地域での指導のできる方は2名。

種目

対象となる２名の方が指導できる種目はバスケットボール。

１人はすでに指導にあたっていただいている方である。

資格有無

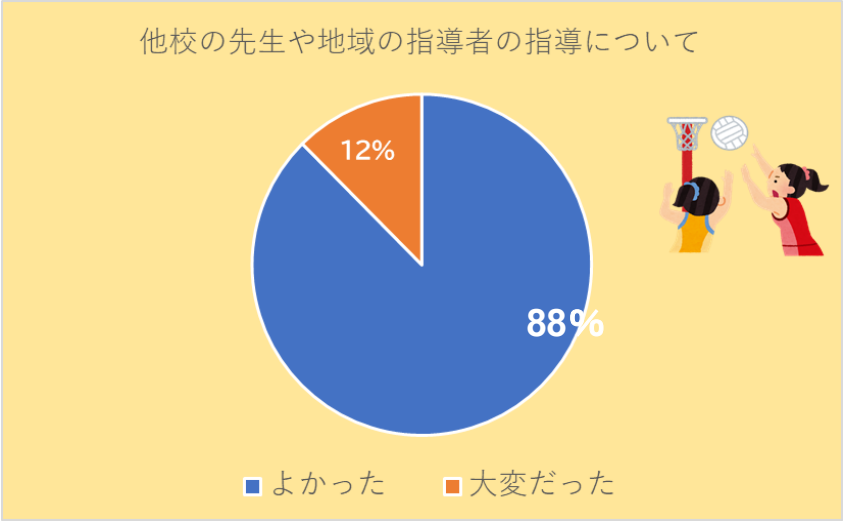
２人ともJBA公認D級コーチの資格を持っている。

バスケットボールについては、今のところ指導者が足りているので新たに声はかけていない。

取組の成果

参加した中学生を対象にしたアンケートによると、88%の生徒が指導者の指導の仕方について「よかった」と評価している。

その理由について、「丁寧に教えてもらい分かりやすいから」「より高いレベルの指導を受けられるから」「いつも意識しているところをさらに詳しく教えてもらえるから」「テクニックについて分かりやすく教えてもらえるから」などがあがっていた。一方、「指導の仕方が厳しい」と感じた生徒がいた。生徒たちの経験の違いを把握して、そのことをより意識した指導を心がけていきたい。



2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

県スポーツ振興課の指導主事を講師に、「指導者としてのマインドセット」と題して講演会を実施した。

内容は、①「安全管理」、②「意識　視点　言葉」、③「ハラスメント」の３点である。

「安全管理」については、活動前・直前・実施中・終了後の時系列におけるポイントについてお話を伺った。「意識　視点　言葉」については、『可能思考』を育てることの大切さを学んだ。「ハラスメント」については、指導者の主観的な指導方法にも原因があることを知り、「プレイヤーズセンタード」を大切にし、子どもたちの成長をサポートしていくことの大切さを学んだ。最後に、セルフチェックシートで自分の特性を知り、今後の指導に生かしていくことを確認した。

指導者研修の参加実績

・開催日：　令和７年２月　２２日
・開催回数：１　回
・参加人数：３０　人

当日は、３つの部活動で大会があり、全員が参加することはかなわなかった。しかし研修会が午後開催だったため、試合が終了したところで途中から参加した指導者がいた。

受講者の声

・指導者として、知るべきことや考えるべきことを改めて勉強するよい機会であった。
・研修について、大変勉強になりました。子どもたちの「やりたい」を叶える部活にするよう、心がけていきたいと思います。
・子どもを中心に据えて伸ばしていくことの大切さがよく分かりました。
・選手が目指すところへ行けるよう、指導者・保護者が一体となって成長できるよう努めていきたいと思います。
・自分の姿を振り返るよい機会となりました。
・今までの経験に頼る指導から、子どもたちを中心にして共に学んでいく指導に変えていけるよう努力したいと思います。
・ハラスメントにならないよう、日頃の指導を見直していきたいと思います。

今後の課題と対応方針

指導者を一同に集め、複数回の研修会を実施することは難しい。南佐久は、教員が主体の指導体制であり、「ハラスメント」等については、各校で研修が行われている。新たな方法で、必要な内容を必要な指導者が受講できるようなシステムがあるとありがたい。有料のものには手が出しにくいため、国でビデオを作成していただき、無料で配信できるようなシステムがあるとありがたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

「保護者負担無し」を掲げて事業をスタートし２年目が終わる。この間は、各クラブの活動回数を年間24回と少なく設定したため負担無しでの運営ができた。しかし、来年度には実施回数を多くする。そのため、保護者の意識調査を行い、結果をもとに各校での説明会を開催し、次年度からの負担に理解を求めた。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

南佐久郡中学校部活動運営委員会は、教育委員会内に設置されており、事務所開設やパソコン等の費用は新たに発生していない。そのため、イニシャルコストについては考慮する必要がほぼない。

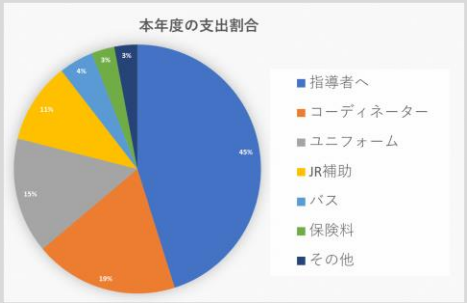
■ランニングコストの分析

来年度は、年間活動回数を24回から40回に増やす。そのため、指導者への給与・旅費が大幅に増えることが予想される。また、地域移行に参加するクラブ数が増加する可能性があり、本委員会独自の取組としてのJR小海線の利用補助が増額する可能性がある。

町村からの負担金は増額の見込みだが、支出を減らすため、保険料は保護者負担としたい。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

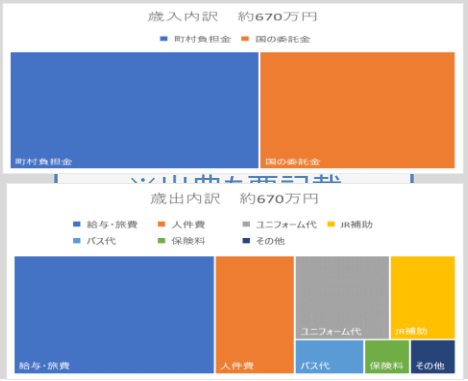
令和６年度支出割合



令和７年度は活動実施回数を本年度の1.7倍に増やす。そのため、指導者謝金の割合がぐっと増えることが予想される。町村からの負担金を本年の２倍にしていただくめどがついたが、保護者負を少しずつお願いしていく予定で、次年度は保険料の負担をお願いすることにしている。

収支バランス

令和６年度歳入と歳出の内訳



本年度の収支バランスは良好である。昨年度分の国からの委託金がいただけたため、ユニフォーム代を支払うことができた。また、保護者負担なしで運営することができた。来年度はユニフォーム代はいらないが、指導者への給与・旅費が増額するため、歳出割合が変わってくる。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

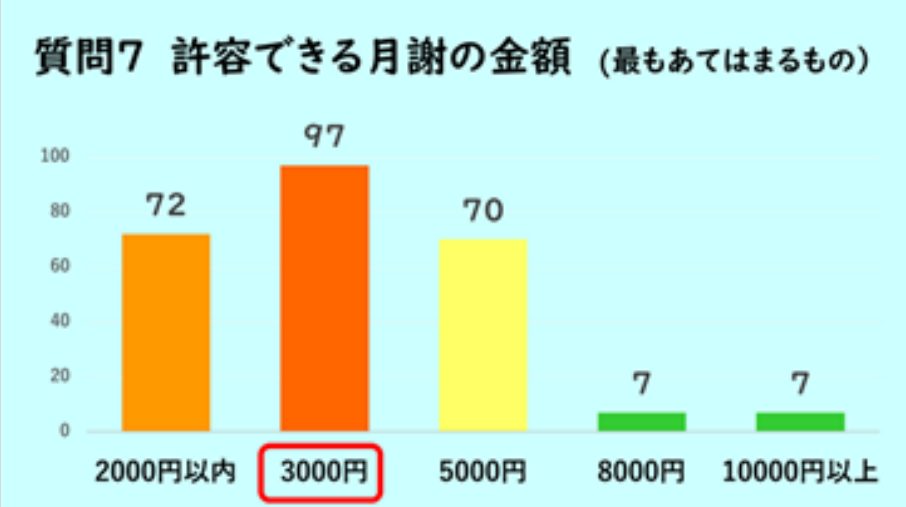
取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

年本度は、来年度以降に発生する保護者負担について、説明し了解していただく年とした。５月と翌年２月に行われた各校の「部活動運営委員会」に統括コーディネーターが参加し、本地域における部活動の地域移行について、進捗状況並びに今後の課題について話をした。２月の委員会では、右図にあるアンケート結果を示し、来年度からの保護者負担についてお願いした。すべての中学校において、このことを了解していただいた。アンケートでは、253人の保護者から回答を得、97人から月謝の金額は3,000円程度でよいという答えをいただいた。2,000円以内という回答が大半を占めると予想していたが、それより多い金額を選んでいただいたことに驚いている。このことをもとに、来年度は保険料を、令和9年度の休日移行完全実施の年からは月謝をいただくという方向が確立できた。このことにより、事業継続の見通しが持てるようになった。

保護者アンケートの結果から　：　数字は人数



今後の課題と対応方針

本委員会では、長野県から示されている移行予定を受け、令和9年度からは全ての部活動において休日の地域移行を実施する予定である。

そうなった場合の予算規模は、本年度の4倍になると予想している。令和7～8年度については、移行期間として徐々に活動回数を増やし、予算規模を拡大していくように計画している。

町村に対しては、この状況をシュミレーションした予算案を提示し、予算の増額をお願いしている。しかし、限界はある。そこで、令和9年度からは、保護者から月謝をいただき、スムーズな運営ができるように協力していただくよう考えている。説明会における保護者の反応は良く、月謝制度がうまくスタートできるのではないかと期待している。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本年度は９つのクラブが休日における地域移行を実施した。予算の関係上、月に2回程度、年に24回以内の活動となったが、各クラブで計画的に進め、充実した活動ができた。

運営委員会という組織での活動であるが、状況を把握し次に進む方向を考えているのが校長会である。コンパクトなこの会で様々なことを決定し、それを教育長を通して各町村に伝え、校長を通して各学校での実践に活かしている。校長会がうまく機能しているため、広域での連携がスムーズにできている。

指導者については、教員が主体の体制が続いている。そんな中、柔道クラブが教員無しで立ち上がったことは、今後のモデルケースとなる。ただ、教員の手を借りなければ成立しない地域であるため、謝金面で手厚くしていきたい。

今後、全部の部活動が休日に地域移行することを考えると、予算の急激な増額が必要となる。保護者負担をお願いするにあたっては、今から理解をしていただくことが大切であり、部活動運営委員会へのコーディネーターの参加は、その大きな一歩となった。

●成果の評価

南佐久における課題は、毎年大きく変わるわけではない。今年度は記載したような成果が得られたものの、まだ途中経過に過ぎない。これからも継続して地道にこれらの課題に向かっていくことで、持続可能な運営を行っていきたい。

部活動運営委員会に参加させていただき、ある中学校で、「来年度の本校への入学者は18名です。」という数字を知ることができた。「え、そんなに少ないの？」というのが率直な感想である。このように少子化の進む中、郡内の4校が集まってもなお成立しなくなる種目が出てくるのではないかと危機感を覚える。

「子どもたちが、やりたいスポーツをできるようにしたい。」との願いから始まったこの事業が、その趣旨を貫きながら継続していくことを目指し、保護者や地域の方の理解を得、運営を進めていきたいと考える。

●今後に向けて

上記のように、この活動を続けていくことが今後に向けての課題である。具体的には、「各クラブが成立し、やりたい活動に生徒が参加できること」、「十分な予算を得て、余裕ある運営ができること」があげられる。

予算について、来年度は活動回数を大幅に増やすため、町村からの負担金を倍増していただくことになっている。令和9年度の完全実施時には、さらに大幅増となり、保護者負担をお願いすることになる。この場合の保護者負担が大きくなりすぎないよう、国からの補助金の継続と増額を期待したい。持続可能な活動とするため、みんなで力を出していく必要がある。国がその先頭に立っていただけるとありがたい。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

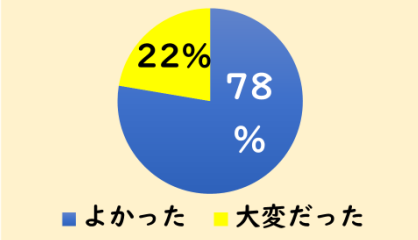
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

Q.休日の合同練習に参加してどうでしたか？

アンケートから　【生徒】

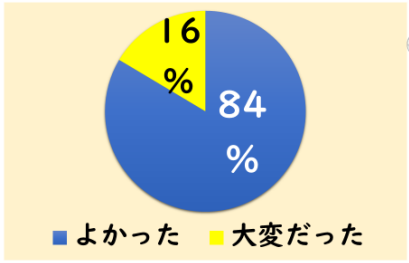
質問1　休日の合同練習に参加してどうでしたか



Q.大会に南佐久中学校合同チームとして参加したことはどうでしたか？

アンケートから　【生徒】

質問3　大会に南佐久中学校合同チームとして参加したことはどうでしたか

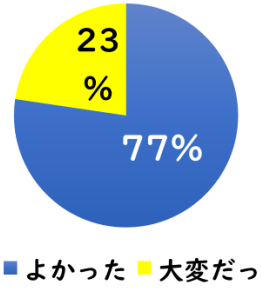




Q.平日の合同練習に参加してどうでしたか？

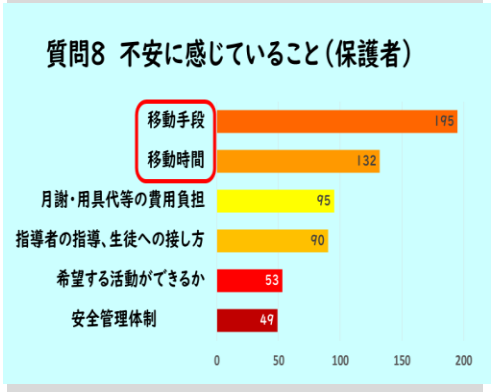
アンケートから　【生徒】

質問2　平日の合同練習に参加してどうでしたか





Q.不安に感じていることは何ですか？



●参加者の声

中学生

・人数が多くて練習が楽しい　・つながりができ、友達が増えた　・いつもならできない練習ができる　・いろいろな練習方法を学ぶことができる　・もともと敵同士だった人が仲良くなれた

中学生

・チームの層が厚くなった　・大会でいい結果が出せた
・合同チームになったからこそ大会に参加することができた
・他の学校の選手を見てたくさん学ぶことがあった

中学生

・休日だけで足りないところができたのでよかった　・チームが強くなれた　・チームが一層仲良くなり、プレーの幅が広がった　・たくさんの人数で、質の高い練習ができた
・時間が増えて、チームがもっと成長できた

保護者

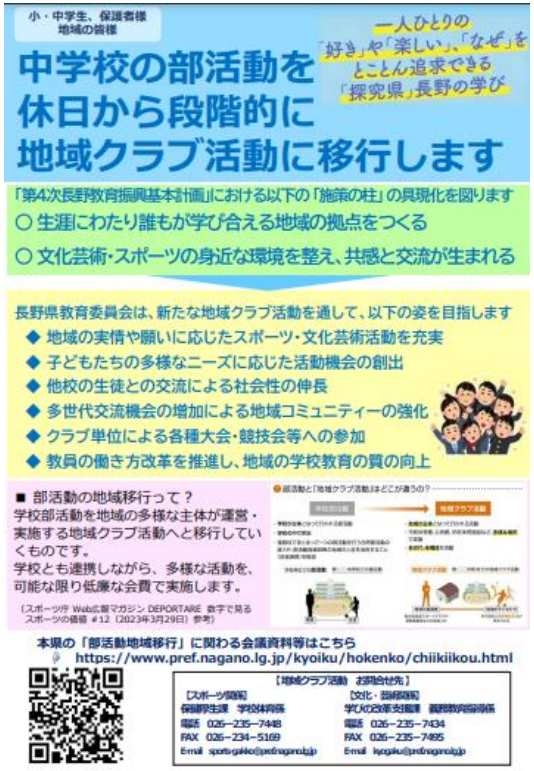
・練習場所が遠い場合、冬の期間積雪が多い場合など送迎できない事もある　・送迎のための労働、移動時の運転（往復1時間半）は、子供の為と思ってはいても相当しんどい

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

アンケート結果・広報資料

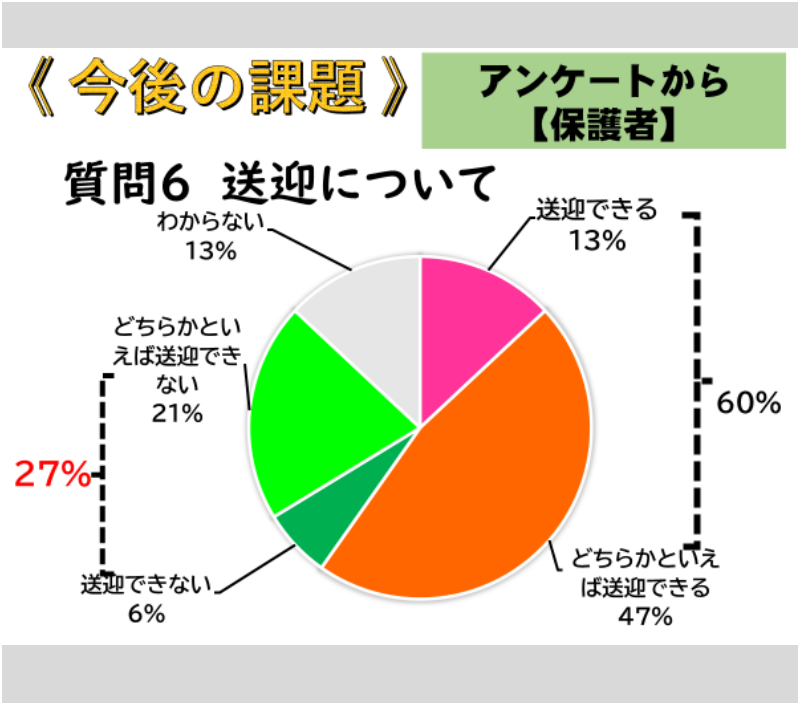
南佐久郡からのチラシはない。
保護者に対し地域移行についての理解を得るため、長野県が作成したチラシを全家庭に配布した。



【県から出されたチラシ】

出典:長野県教育委員会保健厚生課、学びの改革支援課

アンケートについては、生徒・保護者・指導者を対象に実施した。結果については各校で実施された部活動運営委員会の場において、その一部を引用する形で、説明の際に使用した。



【アンケート結果】

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【サッカー部　天然芝グラウンドでの練習（平日試行）】



【女子バスケットボール】



【平日部活動　町バスを利用しての移動】



【大会参加の様子（男子バスケット）】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和２年	令和４年	令和５・６年	令和７年
単独校での大会参加が困難になる対応開始 ▶	合同部活動実施に関する学習課題の洗い直し ▶	南牧中学校をモデルとして地域移行を試行 ▶	「南佐久郡中学校部活動運営委員会」の立ち上げを決定 ▶	地域クラブ活動の本格実施 ▶	地域クラブ活動の拡大

●ステークホルダー

学校関係者　教育委員　教育長

●経過

各校チームスポーツにおいて、単独校での大会参加が困難になる。PTA会長から広域での活動が提案される。教育委員の会議で学校長から部活動の実態が発表される

●実施にあたって生じた課題

大会参加や部活動の存続が難しい状況になってきたが、各校での問題としてとらえていた。

●実施内容、工夫した点 等

教育長会や校長会で各校の実態を共有し、合同で行える部活動について考え始めた。

●ステークホルダー

南牧村　村費職員をコーディネーターに

●経過

各校の実態把握、生徒・保護者へのアンケート実施、合同練習会の試行

●実施にあたって生じた課題

地域移行を実施するにあたっての学校職員の意識統一：粘り強く話し合いを実施

●実施内容、工夫した点 等

地域スポーツクラブ活動体制整備事業への申請と4種目45人による合同部活動の実施。次年度から本格実施するための体制づくり。

●ステークホルダー

南佐久郡中学校部活動運営委員会
統括コーディネーター　指導者

●経過

4月に運営委員会を立ち上げ、統括コーディネーターを置いた。地域クラブ活動の本格的な実施。

●実施にあたって生じた課題

指導者への謝金をどのような形で支給するか。教員主体の指導体制の中でどのように地域指導者を確保するか。

●実施内容、工夫した点 等

指導者と雇用契約を結び給料として支払いをすること。部活動指導員やコーチ経験のある地域指導者への声がけ。

●ステークホルダー

指導者　統括コーディネーター

●経過

本年度から、休日における活動回数を40回に増やす

●実施にあたって生じた課題

予算の確保について

●実施内容、工夫した点等

令和6年度中に各町村に対して次年度からの活動拡大を伝え、負担金の増額をお願いした。運営委員会で作成した予算案を、教育長を通して各町村の首長に説明し理解を得ることができた。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

南佐久郡中学校部活動運営委員会　部活動地域移行のスケジュール

年度	2022年度（R4）	2023年度（R5）	2024年度（R6）	2025年度（R7）	2026年度（R8）	2027年度（R9）
南佐久郡6町村	南牧村を中心に合同部活動の試行	南佐久郡中学校部活動運営委員会による部活動の実施				
		コーディネーターの設置（令和5年度から）				
	前半：アンケート実施 11月～2月まで拠点校方式による合同部活動の実施	休日における部活動地域移行の実施				
		休日の活動回数：24回		休日の活動回数：40回		保護者負担の開始
	実施種目 卓球　サッカー 男子バスケット 女子バスケット	夏季大会：6部活 卓球　サッカー 男子バスケット 女子バスケットA 女子バスケットB 男子バレーボール	・単独では大会に参加できないチームスポーツを中心に、地域移行を進める。 ・各校が単独でできる種目については、従来通りの部活動として続ける。			休日における部活動地域移行の完全実施
川上村 南牧村 小海町 南相木村 北相木村 佐久穂町	参加校 川上中学校 南牧中学校 小海中学校 佐久穂中学校	新人戦から8部活に 女子バレボール 陸上が　加わる	平日における部活動地域移行の試行 R8年度までは、大会前の5日間で試行 柔道が加わり9部活			